



agenda

1. FC発プロジェクトの事例紹介
2. 国保ゼミのFCの概要
3. 大学生FCの利点
4. FCの可能性

1. FC発プロジェクトの事例紹介 「茶の和ルール」

静岡県立大学経営情報学部
国保ゼミ4年
石田 裕紀子

静岡らしいおみやげって？

- ばか売れ商品はあるけど・・・
- 静岡らしさは感じられない・・・

問題意識

希望

THE☆静岡！なおみやげが欲しい！

コラボ@フューチャーセンター

静岡県立大学内での学部間コラボ！
それぞれの強みを活かして協力

経営情報学部

- マネジメント
- 顧客起点、ニーズ把握
- 情報発信



食品栄養科学部

- 食品の知識を活かした発案
- 食品業界に特化したコミュニティを活かした情報収集



THE☆静岡って？

ブレインストーミング@FC

静かな岡

お茶

富士山



温暖な気候

人が穏やか

海山川が
揃っている

THE ☆静岡を商品で表現しよう

ブレインストーミング

ブラッシュアップ

お菓いで茶畑を表現
したらおもしろくない？それって
需要あるの？ターゲットは
誰なの？商品化して
何がしたいの？

商品コンセプトが固まる。そして…

• 私たちのミッションは

**「静岡県民が静岡じまんをする
きっかけづくり」**• 静岡のお茶を使って茶畑をイメージした
ロールケーキを商品化したい！それやりたいなら
〇〇さんに話聞くのがいいよ

洋菓子店さんを紹介するよ



協力者が見つかる！



「茶の和ロール」が形になる

壁にぶつかる

• パッケージを決める過程

- 案がいくつも出た。絞る基準がわからない……。
- 選べない、迷う
- コスト設定。「こんなのパッケージにした
い！でもコスト的に無理だよ……」
- もう早く商品化してほしい
- 楽しくない

壁を乗り越える@FC

- 「パッケージは自分の想いを伝える最高の
ツールでしょ」
- 「生産者目線になってるよ。(プロダクト
アウト)」
- 「1番伝えたいメッセージは？」
- 「誰に伝えたいの？」
- 「決められたコスト内で最高のモノを創り
出せばいいだけじゃん」
- 「優先すべきなのは何？」

フューチャーセンターを通じて…

- 他学部の学生、他大学の学生、社会人と
関われる(多方向からの意見)
- 客観性が得られる
- 本質に戻れる
- ロジックが通る
- 背中を押してもらえる
- 自分が次に取るべき行動が見えてくる
- 関わった人たちに「茶の和ロール」に愛
着を持ってもらえる

気づく！

茶の和ロール完成！



ロールケーキ
+静岡茶ティーバッグ2個

これから販促活動に努めていきます！！



茶の和ガールズ♪

2.国保ゼミのFCの概要

静岡県立大学経営情報学部助教
国保祥子

ある日のFCの流れ

18:00～（開場）
自己紹介&アジェンダ確認
目的は、これからの時間にワクワクしてもらうこと
*板書で可視化

18:30～
軽食を取りつつアイスブレイク
*ポジティブ&クリエイティブな脳にシフトしてもらう！

19:00～
学生によるファシリテーションでディスカッション
*ゴールが発散系か集約系かを区別して実施

20:00～
小休止、商品の宣伝タイム

21:00
いったんお開き
今日の気付きをひと言ずつ共有。facebookにも掲載
*場の価値を実感してもらい、再訪につなげる

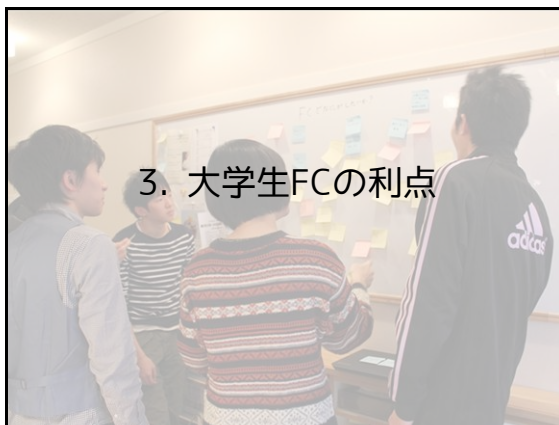


もちこまれるプロジェクト

- Project Based Learningのゼミ生が手掛けるプロジェクトの進捗&課題の確認
- 中小企業の新商品開発に関するプレスト
- 「学生の意見を聞きたい」というニーズ



3. 大学生FCの利点



大学生が運営するFCの特徴

- FCとは、各種ステークホルダーの対話の場
→情報の非対称性を解消し、問題解決へ
- 有意義な対話に貢献する学生の要素
 - ①ゼロベース思考
 - ②階層のないコミュニケーション
 - ③未来思考の議論
 - ④学生という大義名分
 - ⑤オープンマインドの場



4. FCの可能性



実践から感じるFCの価値

- 公立大学の役割とは（文部科学省の定義）
“地域における高等教育機会の提供と、地域社会での知的・文化的拠点として中心的役割”
- 産業界への人材供給（経済産業省の定義）
職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力

基礎学力

+

専門知識

+

社会人基礎力

前に踏み出す力
考え抜く力
チームで働く力

FCがあると・・・

- 小さな変化/行動の灯を消さずに済む
- リーダーをコミュニティで支えられる
- 組織や社会の変革につながる
- 個人の小さな行動が大きな影響力となる



ありがとうございました。
akokubo@u-shizuoka-ken.ac.jp